

建築物石綿含有建材調査者(一般) 修了考査

試験年月日 令和 年 月 日

受講券番号	氏名

1. 指示があるまで、問題は見ないで下さい。
2. 問題は合計35問です。
合格点は、正解が全科目で60%以上です。
3. 回答は、解答欄に
正解と思う番号を記入して下さい。
4. 試験時間は100分です。
5. 印刷の不明の場合は手を挙げて下さい。
6. 受験に不正行為があった者は、不合格となります。
7. 合格者には、採点後に修了証をお渡しします。

* 一般社団法人 群馬労働基準協会連合会 *

2023.04

考査番号 1

採点者	確認者

回答	番号	一般石綿調査者	科目1:建築物石綿含有建材調査者に関する基礎知識1		
	問1	<p>石綿の種類に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 石綿は非常に特徴的な繊維状の形態を有し、外観が絹のような光沢を有するものもある。</p> <p>② 今まで世界で使用されていた石綿の約9割以上が、クリソタイルである。</p> <p>③ 石綿は6種類あり、そのうち蛇紋石族はアモサイト1種類のみである。</p> <p>④ 塊状の岩石であっても、微細に粉砕することにより繊維状を呈するクリソタイルなどが発生する。</p>			
	問2	<p>石綿の特性に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 織物として織ることができる。</p> <p>② 摩耗しやすい。</p> <p>③ 熱を通しにくい。</p> <p>④ 表面積が大きいので他の物質との密着性に優れている。</p>			
	問3	<p>石綿関連疾患に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 胸膜中皮腫の発症リスクは、どんな石綿も同じである。</p> <p>② 石綿肺は大量に石綿を吸入することによって発症する。</p> <p>③ びまん性悪性胸膜中皮腫は、わが国では近年増加傾向がみられる。</p> <p>④ 石綿ばく露によって生じる非悪性の胸水を良性石綿胸水という。</p>			
	問4	<p>建築物に使用されている石綿に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 鉄骨耐火被覆用では、吹付け石綿の場合、セメントと石綿で構成されている。</p> <p>② 鉄骨耐火被覆用では、吹付け石綿の場合、石綿含有率は約20%重量%である。</p> <p>③ 鉄骨耐火被覆用では、石綿含有吹付けロックウール(乾式)の場合、石綿含有率は約1~30重量%である。</p> <p>④ 石綿含有耐火被覆板は、石綿含有吹付け材の代わりに用いられる。</p>			
	問5	<p>石綿含有建材のレベル分類に関する組み合わせ、<u>レベル1</u>に該当する石綿含有建材はどれか選びなさい。</p> <p>① 吹付け石綿</p> <p>② 石綿含有ケイ酸カルシウム板第2種</p> <p>③ ロックウール吸音天井板</p> <p>④ 石綿スレート</p>			

回答	番号	一般石綿調査者	科目2:建築物石綿含有建材調査者に関する基礎知識2	
	問6	<p>大気汚染防止法、建築基準法、その他関係法令に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。</p> <p>① 建築基準法は、規制対象が吹付け石綿および石綿含有吹付けロックウールとされている。</p> <p>② 大気汚染防止法では、事前調査結果等の掲示板の大きさは、日本産業規格A4判以上とされている。</p> <p>③ 廃棄物処理法では、レベル3を「石綿含有廃棄物」と位置づけ、安定型処分場に埋立処分することとしている。</p> <p>④ 大気汚染防止法では2020(令和2)年に、石綿成形板等も適用対象とされた。</p>		
	問7	<p>建築物石綿含有建材の事前調査に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。</p> <p>① 建築物の所有者や建物管理を所有者から受託している業者などから竣工年、改修履歴などの情報を入手する。</p> <p>② 書面調査を実施し、現地調査の確認ポイントなどを洗い出す作業を実施する。</p> <p>③ 改修や解体の事前調査の目的は、労働者保護や周囲への飛散防止である。</p> <p>④ 対象とする石綿建材は、改修の場合はすべての石綿建材において行わなくてよい。</p>		
	問8	<p>建築物石綿含有建材調査に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。</p> <p>① 調査にあたってはできる限り石綿を吸入しないように、防じんマスクの着用、帯電防止の作業衣の着用を行う。</p> <p>② 石綿の有無が不明な吹付け材、断熱材、保温材、耐火被覆材を調査する時は、必ず該当部位周辺の換気を行う。</p> <p>③ S造(鉄骨造)の建築物を調査する場合、吹付け材が劣化等により天井裏に堆積しているおそれがあるため、点検口からの調査の際、点検口からの粉じんの飛散に留意する。</p> <p>④ 板状のものは、図面上無含有建材との記載があったとしても、石綿含有の場合もあり、逆に図面上石綿含有建材であっても、無含有の場合があるので留意する。</p>		
	問9	<p>石綿含有建材調査者の役割に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。</p> <p>① 調査者の職責は、依頼された調査範囲における結果に対する限定された責務である。</p> <p>② 解体・改修工事の全体的な責務は、解体・改修工事の施工者や建築物の所有者などにある。</p> <p>③ 判断に苦慮する事案には、推測により結論をまとめ、現地調査報告書を作成する。</p> <p>④ 調査者は、国内外にはどのような対策技術や工法があり、調査した建築物に最も適した手段はどのような方法なのかというような、技術に関する助言もできることが望ましい。</p>		
	問10	<p>石綿含有建材調査者に求められるものに関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。</p> <p>① 建築物解体等における石綿規制についての知識を有すること。</p> <p>② 建築物などの設計図書や施工図などを解析し、必要な情報を抽出できること。</p> <p>③ 石綿分析結果の解析力を有すること。</p> <p>④ 依頼者の意向に沿った調査を実施する力を有すること。</p>		

回答	番号	一般石綿調査者	科目3:石綿含有建材の 建築図面調査		
	問11	<p>建築一般に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 建築基準法第1条には、「建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定め」と記されている。</p> <p>② 建築基準法で定められている仕様は、設計を行う上での推奨値である。</p> <p>③ 建築基準法の防火規制に基づき耐火構造または不燃材料などが求められる部分にその性能を備えた石綿含有建材が使われることがあった。</p> <p>④ 2006(平成18)年10月に建築基準法における石綿の使用禁止が規定された。</p>			
	問12	<p>建築一般に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 「延焼のおそれのある部分」(建築基準法第2条6号)とは、建築物の外壁部分に隣接する建物等で発生した火災の延焼を受けたり、及ぼしたりするおそれのある範囲を指す。</p> <p>② 「延焼のおそれのある部分」(建築基準法第2条6号)とは、隣地境界線及び道路の中心線よりそれぞれ1階にあっては3m以下、2階以上にあっては5m以下の距離にある建物の部分をいう。</p> <p>③ 建築基準法第2条5号の「構造上」とは、防火上の観点を意味する。このため、構造耐力上重要でないもの(居室と避難施設たる廊下などとの区画などを構成する間仕切壁など)も主要構造部となる。</p> <p>④ 建築基準法第2条5号の「主要構造部」とは、壁、柱、床、はり、屋根、または階段をいう。局所的な小階段、屋外階段その他これらに類する建築物の部分も主要構造部に含まれる。</p>			
	問13	<p>耐火構造および耐火被覆に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 耐火構造には、告示に定める仕様を用いる場合と、国土交通大臣の認定を受けた仕様とがある。</p> <p>② 鉄筋コンクリート造(RC造)や、鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC造)の柱やはりは鉄筋や鉄骨の周囲がコンクリートで被覆されているが、吹付け石綿や耐火被覆板で必ず保護しなければならない。</p> <p>③ 鉄骨造(S造)の耐火被覆には、合成被覆耐火構造として、2種類以上の性質の異なる耐火被覆材を施し、鋼構造を形成するものがある。</p> <p>④ 合成被覆耐火構造は、壁と柱、はりの取り合い部分において耐火被覆の施工ができないことを補うために施工されるものである。</p>			
	問14	<p>防火区域に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 防火区画とは、火災の発生時に火災の発生元以外のところに急激に火炎が燃え広がることを防ぐために建築基準法で定められた区画のことをいう。</p> <p>② 異種用途区画とは、同じ建築物の中に異なる用途が存在し、それぞれの管理形態が異なる場合、用途や管理形態の異なる部分を区画することで被害の拡大を食い止めるものである。</p> <p>③ 建築設備は、耐火構造に事前に計画した開口部をあけ、配管やケーブルを通した後、周囲を埋めるなど耐火性能を損なわないようにしなければならない。</p> <p>④ 面積区画は、100～1000㎡(建築物の構造や用途などによって異なる)ごとに区画することが定められている。</p>			
	問15	<p>内装制限に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 建築基準法上、一定条件を満たす場合は、壁・天井の室内に面する部分の仕上げを防火上支障のないようにしなければならない。こうした規定を「内装制限」という。</p> <p>② 一定規模以上を特殊建築物の用途に供する建築物の居室の壁・天井を準不燃材料とすることが義務付けられている。</p> <p>③ 主要構造部を耐火構造とした場合を除き、調理室、浴室、乾燥室、ボイラー室などの壁・天井を準不燃材料とすることが義務付けられている。</p> <p>④ 建築物の屋根等の裏面には、不燃材料の仕上げ材として石綿含有吹付けロックウールが使用されている可能性がある。</p>			

	問16	<p>設計者の設計思想や要求性能に着目する方法に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 建築物の最上階の天井スラブ下には、吸音を兼ねた仕上げ材として吹付け石綿を施工する例が多い。</p> <p>② 機械室や電気室などに設置された設備機器からの騒音の発生する箇所では、壁・天井などに吸音目的で吹付け石綿が施工された。</p> <p>③ プラント施設や建築物の設備配管の保温や凍結防止を目的として石綿含有建材は多用された。</p> <p>④ 設計者の設計思想や発注者からの要求性能により、断熱や結露防止、吸音等の性能を必要とする部位で石綿含有建材が使用されている場合がある。</p>
	問17	<p>レベル1の石綿含有建材に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① レベル1の石綿含有建材は施工方法や材料によって6種類に分類される。</p> <p>② レベル1の石綿含有建材の使用目的には耐火や断熱・結露防止、吸音がある、目的によって種類が限定できることがある。</p> <p>③ 石綿含有吹付けパーライトは耐火構造認定を取得したもので、耐火被覆が必要とされている部位に多く使用されている。</p> <p>④ 石綿含有吹付けロックウール(湿式)は比重が大きく硬いので、吸音(遮音ではない)を目的とした吹付け石綿には使用されていないと推測できる。</p>
	問18	<p>レベル3の石綿含有建材に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① レベル3の石綿含有建材とは、レベル1、レベル2に該当しない残りのすべての石綿含有建材のことである。</p> <p>② 製品となっている建材中の石綿含有量は5～10%程度であることが多いことを考えると、実際の石綿含有建材の使用量は石綿輸入量の10%程度と推計される。</p> <p>③ 表面観察からだけでは石綿含有建材であることが分かりにくい建材も多数存在する。</p> <p>④ 石綿含有建材とそれ以外の性質のものと複合化された建材も使用されている。</p>
	問19	<p>書面調査に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 発注者に、設計図書、過去の調査記録や除去等作業の有無を確認する。</p> <p>② 書面調査の目的が、解体のための事前調査に該当するか確認する。</p> <p>③ 現地調査を行いながら現地で同時に書面を確認することは実務上効率的である。</p> <p>④ 現地調査の動線計画を立て、現地調査を円滑に進められるよう、書面調査結果に基づき建材をあらかじめリストアップする。</p>
	問20	<p>建築図面の入手および発注者へのヒアリングに関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 書面調査では、建築確認図などの設計図書を管轄の関係官庁(建設指導課・消防署)から借用することになり、建築物所有者など関係者の許可は不要である。</p> <p>② 建築図面などの借用時には、その使用目的と不要な部分の閲覧・複製をしない旨の説明が必要である。</p> <p>③ 説明した目的以外のために閲覧・複製してはいけない。複製であっても紛失してはいけないし、使用後に返却しなければならない。</p> <p>④ 借用時には必ず借用書を作成し、借用した図面の種類や設計図書名を記し提出し、返却の際には図面・書類を借用書に基づき返却を確認し、後日トラブルが発生しないよう十分な注意が必要である。</p>

回答	番号	一般石綿調査者	科目4:現場調査の実際と留意点	
	問21	<p>調査の流れに関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 調査対象の建築物は、たいていの場合、これまでに訪れたことのない建築物であり周辺環境なども分からないため、調査者は書面調査を行った後に現地に赴く。</p> <p>② 事前調査について、事前の計画や準備をせずに成り行きで行おうとすると、肝心な部位の調査漏れを生じさせたりして、再調査が必要となる可能性がある。</p> <p>③ 調査者は建築物などの石綿含有建材の調査・報告を行うが、調査依頼者に石綿含有建材の取扱い方法については提案してはならない。</p> <p>④ 事前調査では、内装や下地等の内側等、外観からでは直接確認できない部分についても調査する必要がある。</p>		
	問22	<p>調査フローに関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 調査全体にわたる計画を事前に検討しておく。</p> <p>② 調査全体のフローを考えてそれに沿って行動することは、経費や労力の低減、調査の正確性や信頼性の確保において最適な方法である。</p> <p>③ 現地調査では、書面で得た情報と現地情報との整合性の確認を行う。</p> <p>④ 大まかな現地確認作業の流れを決めた後に、建築物所有者、管理者、維持保全業者などの関係者から改修履歴などをヒアリングする。</p>		
	問23	<p>事前準備に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 調査の前日までに必要な用品を準備しておく。</p> <p>② 調査時の服装のポイントは、粉じんばく露からの自己防衛という1点である。</p> <p>③ 試料採取に際しては呼吸用保護具は国家検定合格品のRS-3またはRL-3の取替え式粉じんマスク以上の性能を有するものを用いることが望まれる。</p> <p>④ 調査を円滑に進めるために準備すべき用品は多種にわたるので、調査対象の建築物に応じて各自が考え、準備することが望ましい。</p>		
	問24	<p>建築物外観の観察に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 現地調査は、まず建築物の外観をじっくり観察する。おおよその作業時間や当日の作業の進行を予測できる。</p> <p>② 対象建築物の外周を一周してみることは参考になるが、隣接建築物が密集している街区は対象建築物の全体を確認できないため参考にならず行わない方がよい。</p> <p>③ 建築物の外観から調査対象の建築物のおおよその間取りを把握できる場合がある。</p> <p>④ 定礎はその竣工時期、施主、施工業者その他の事項が刻印されているので、写真に収めておく。</p>		
	問25	<p>調査時の留意点に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 同一パターンの部屋が続いている場合は同じ建材を使用しているため調査対象の省略ができる。</p> <p>② なぜ、ここに石綿含有建材が使われているのか、もしかしたらあの部位にも使われているのではないかと疑いの目(推測する力)を持つことが重要である。</p> <p>③ 調査にあたっては、2006年(平成18年)9月の石綿禁止以降に着工した建築物等を除き、必ず現地調査を行い、現物との整合性の確認を行う。</p> <p>④ 建築物の一般的な構造や建築基準法などの法制度に関する最低限の知識等の習得に努める。</p>		

		調査時の留意点に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。
	問26	① 試料採取時は扉・窓等を開放し、換気扇などを使用する。
		② 採取者だけでなく補助員、立会人も呼吸用保護具を使用する。
		③ 防じんマスクのフィルターは、一つの調査対象建築物完了ごとに取り替えると決めておくことが望ましい。
		④ 作業着は使い捨て作業着、または粉じんの付着しにくい素材の作業着等を使用する
		石綿含有の有無の判断に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。
	問27	① レベル1の吹付け材のうち目視で石綿含有と判断できる製品は吹付け石綿だけであると考えられる。
		② レベル2の保温材、断熱材等のうち目視で石綿含有と判断できる製品は吹付け石綿だけであると考えられる。
		③ レベル3の成形板等は、裏面等に書かれている情報を確認し、石綿の有無に関する情報を読み取る。
		④ レベル1,2の建材は石綿含有建材と「みなす」ことも認められているが、レベル3については「みなし」判断は行ってはならない。
		調査者による試料採取に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。
	問28	① 採取箇所の選定は、先入観を持たずにその対象となる室内を詳細に観察することから始める。
		② 事前調査について厚生労働省通達では、同一と考えられる建材の範囲ごとに、原則として1箇所のみ試料採取することを示している。
		③ 施工年によっては、石綿含有のものと石綿不含有のものが混在している時期がある。
		④ 建築物の所有者などから石綿対策工事は既に完了していると説明されても、その対策工事が除去工事なのか、その他の工事なのか誤解している場合もあり得る。
		調査者による試料採取に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。
	問29	① 色、形状、硬さ、内容物、テクスチャが見た目で異なる試料は異なる試料と判断し、個別に採取する必要がある。
		② 吹付け材は、現場において、吹付け材料を対象物に吹付けて完成するが、完成したものは材料組成が均一になっている。
		③ 主成分がバーミキュライト主体の吹付け材に関しては、厚みが1mm以下がほとんどのため、この場合は100cm ² 程度の試料採取を行う。
		④ 成形板には、表面を化粧したものがあるため、表面のみの試料採取はしないこと。
		写真の撮り方に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。
	問30	① 写真は不足しているより過多である方がはるかによい。
		② 現地での写真撮影は、調査の補助員がカメラマンとなることが望ましい。
		③ 対象物は広角撮影と近接撮影(アップ)をしておく。ただし、アップで真正面から撮影すると編集時に平面的で内容不明、部位不明の写真になってしまうおそれがあるので注意する。
		④ デジカメはメモ代わりになるから、たくさん撮影することが編集に役立つ。

回答	番号	一般石綿調査者	科目5:建築物石綿含有建材 報告書の作成	
	問31	<p>安衛法令の石綿則に基づく記録に求められる、主たる3要件に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 石綿含有建材の有無と使用箇所を明確にする。</p> <p>② 石綿を含有しないと判断した建材は、その判断根拠を示す。</p> <p>③ 調査の責任分担を明確にする。</p> <p>④ 改修・解体工事の具体的工法について示す。</p>		
	問32	<p>「石綿含有建材有無に関する事前調査結果報告書」に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 調査方法は、書面調査、現地調査、分析調査のうち、該当するものどれか一つを選択する。</p> <p>② 調査の種類は、「a石綿則・大防法に基づく事前調査」と「bその他の調査」がある。</p> <p>③ 建築物所在地は、地番・家屋番号ではなく、住居表示を記入する。</p> <p>④ ヒアリングは、対象者(発注者・管理者・所有者)等を記入する。</p>		
	問33	<p>調査報告書の作成に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 調査詳細報告書における建物用途は、事務所、工場／倉庫、娯楽施設、学校など複数選択可である。</p> <p>② 解体における事前調査は網羅的にすべての部屋を調査する。</p> <p>③ 分析試料採取位置図において、分析試料の採取場所、試料ナンバー、3ヵ所からの採取状況が分かるように、平面図上ではなく箇条書きで記載する。</p> <p>④ 同一と考えられる建材の範囲ごとに、原則として3ヵ所以上から試料を採取し、適宜色分けをして採取位置を明記する。</p>		
	問34	<p>分析試料一覧表(分析依頼表)に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 採取建物名は、調査対象に複数棟があれば配置図等で確認し、記載がない場合は、調査依頼者に分かりやすく表現する。</p> <p>② 試料採取日、採取者資格は、採取した者の姓名と資格を記す。</p> <p>③ 採取物建材名は、竣工図(特記仕様書、仕上表)に書かれている建材名(商品名)に合わせる。</p> <p>④ 採取場所は、複数の部屋等にまたがることはない。</p>		
	問35	<p>維持管理における石綿調査報告書等の留意事項に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。</p> <p>① 維持管理における石綿含有建材調査は法的に義務である。</p> <p>② 維持管理における石綿含有建材調査を行う資格としては石綿含有建材調査者である必要はない。</p> <p>③ 維持管理における石綿含有建材調査は、全館全部屋を対象とすることが基本である。</p> <p>④ 建物使用中で調査で出来ない部屋、箇所がある場合はその情報を正確に記録する。</p>		